フジサンケイ ビジネスアイ　2005年(平成17年)3月26日 土曜日

軌道に乗るカンボジア技術支援

研修センターの共同運営も視野に

日本技術士会のプロジェクトチーム」「カンボジア技術協力フォーラム」（ＣＴＣＦ、会長・吉武進也氏）を窓口とする、技術士の対カンボジア技術支援が本格軌道に乗り始めた。05年度からは技術者研修センターの共同運営も視野に入れた今後３年間の長期計画がスタートし、年内にはグリーンテクノロジーの第３次研修が実現する見通しだ。

対カンボジア支援は、故小渕恵三首相が02年１月に訪問して以来の懸案。経済産業省が特別案件として技術支援予算を計上し、日本技術士会は海外技術者研修協会（ＡＯＴＳ）からの委託により、ＣＴＣＦが中心となってカンボジアの発展に必要な技術分野への支援、特に技術系人材の育成と能力開発を進めている。

昨年１月と12月にはカンボジア政府鉱工業・エネルギー省（ＭＩＭＥ）、王立プノンペン大学（ＲＵＰＰ）、カンボジアエンジニア協会（ＥＩＣ）の全面的な協力を得て、カンボジアの豊かな資源を利用する持続可能な開発に貢献する技術として、グリーンテクノロジーの第１、２次研修を中堅技術者、実務者を対象に首都プノンペンで実施した。

また、日本技術士会は昨年10月、05年度以降の技術支援長期計画も提示。長期計画は、継続的な研修が常時可能となる技術者研修センターの施設運営を目指すもので、対象となる技術分野は当面、農産物（食品）加工とＩＴ（情報技術）、自然エネルギー開発関連の電気、環境保全の４つに絞り込んでいる。

こうした中、４月１日にはフンセン首相の側近とされるナムサン国会議員が来日し、日本技術士会の清野茂次会長ら首脳と会談する予定であるため、ＣＴＣＦとしてはカンボジア側の要望を詳しく聞いたうえ、今後の具体的な支援計画を策定する方針だ。

日本技術士会の技術士会員は合計約１万人で、実際に多くの技術分野で技術研修や支援ができる、質量とも十分な人的資源を抱えており、海外業務要員は約600人にのぼるといわれる。このため、第３次グリーンテクノロジー研修では、対象実施地域をプノンペンだけにとどまらず、アンコールワット遺跡で知られるシエムレアプにも拡大していく見通しである。

迫る、多忙で緊張の日々

吉武進也　カンボジア技術協力フォーラム会長

カンボジアへの技術支援に取り組む日本技術士会の吉武進也・カンボジア技術協力フォーラム会長＝写真＝は、超多忙な緊張の日々を迎えようとしている。

４月１日に来日するナムサン国会議員の応対はもちろんだが、目先、選挙管理委員長として日本技術士会の平成17年度役員選挙を取り仕切らなければならない立場にあるからだ。４月20日から５月末まで理事30人、監事３人の立候補を受け付け、６月24日の定時総会で新体制が誕生する運びだ。

加えて、４月からは会員6000人を擁する日本大連会の会長（現副会長）に就任することが内定しており、５月21日のアカシア祭には1500人以上の会員とともに訪中する。

大連は吉武さんにとって、旧制中学３年までの５年間を過ごした第二の故郷。現在2500社もの日本企業が進出していることもあって、「大連理工大学などと技術でおつき合いしていきたい」というのが年来の希望だ。

なお、吉武さんは日本技術士会の前副会長で、現名誉会員、名誉金属部会長でもある。国民工業振興会、溶接接合工学振興会という両財団法人の専務理事も務めている。